復討花千代乃枝

四

川骨口傳
仙人菊口傳
松秀齋

太藺
杜若

安部摂州奥
貞青女

紅梅
竹 松
口傳

永田馬場
松烟齋琴秀

馬耳蘭三本九枚
杜若三本

上野廣小路
松元齋鈴木貞里女

葉蘭 五本 拾三枚

安部摂州藩
松鷲齋 鈴木貞誼

白源氏菊 十七輪

藝州藩
松喬齋 前田秀山

仙人菊九輪
馬蘭五枚
麻布三軒家
松受齋圓阿弥貞雅

金雀花
株
松平藤十郎藩
松心齋谷貞直

柳（やなぎ）

紅寒小菊（こうかんこきく）

明石藩
松蘿齋太田貞也

寒竹（かんちく）口傳
寒菊（かんきく）

海野貞棲

金雀花（えにしだ）
赤御室菊（あかおむろぎく）

大嶋和別藩
松顧齋　渡邊貞靜

山吹（やまぶき）

櫻田善右衛門町
松漣齋　樋口秀乃湖

紅梅

櫻田善右衛門町
松競齋松尾貞花

馬蘭 貳十一枚 七本

有馬備州藩
松幹齋小林貞一

水仙 七本
萬年青 三本
溜池正福寺
松皐齋貞池

柳
梅
寒菊
竹中吉太郎藩濃列岩手
松潤齋竹中貞杜

藜蘆（おもと）
五本（ごほん）
神田多町
松聽齋澁井金影

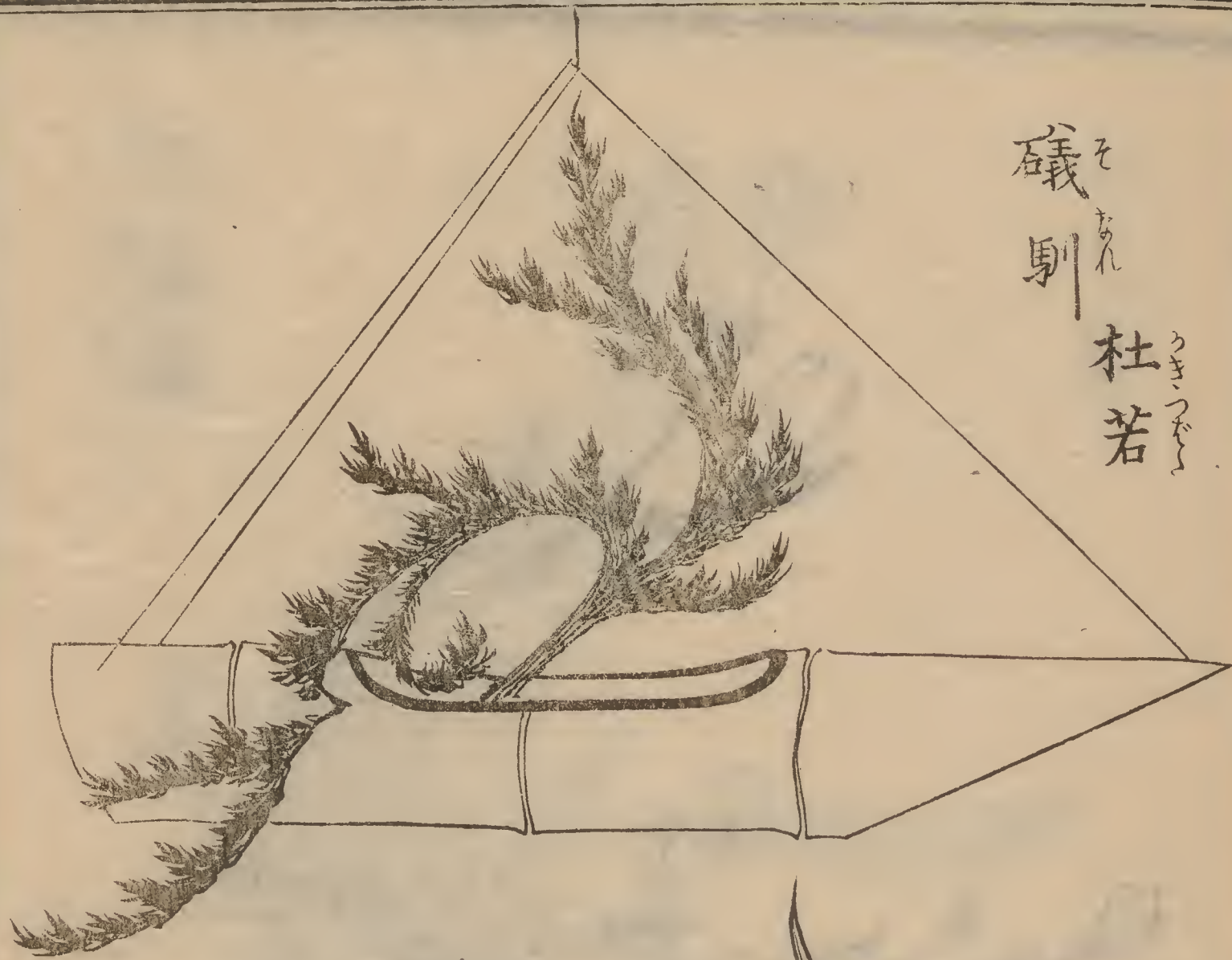
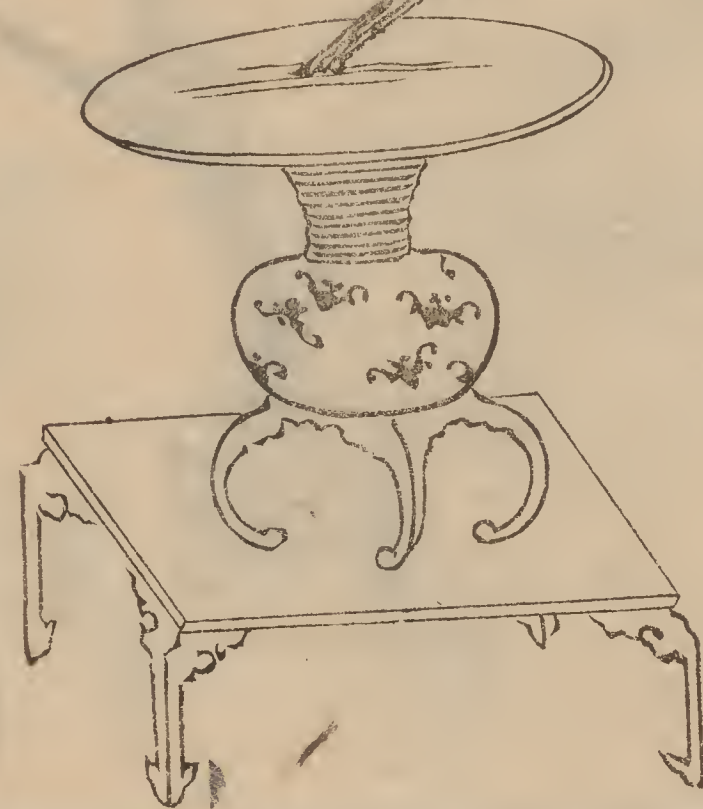
緋桃（ひたう）
肥州佐嘉
松愛齋中嶋雨兄

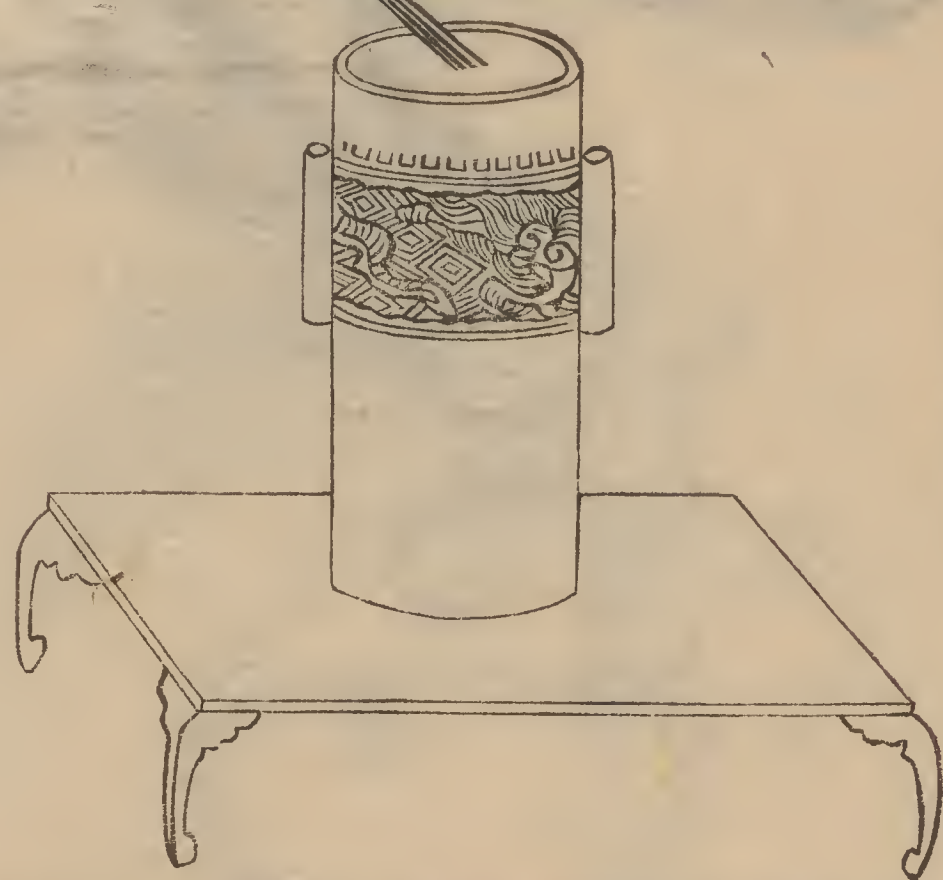
水仙七本

長州萩
松森齋　小森秀景

木蓮花（もくれんげ）

竹中喜太郎藩濃州岩手
松著齋北村貞保

馬耳蘭（ーえらん）

長州藩周防三田尻
松間齋竹屋溪榮

蓮 河骨 杜若 口傳

本町壹丁目
松鶴齋朝田貞二

杜若 三本
萍蓬艸 口傳

長州萩
松亭齋中村貞登

躑躅
丁子菊

亀井隠州藩
布施秀峯

七車菊
拾五輪

赤坂御門外
竹澤貞竹

万年青
五本拾七枚

肥州佐嘉
松寵齋小副川雨簫

椛
丁子菊
拾一輪

肥州佐嘉
中嶋雨澤

柳（やなぎ）
梅擬（うめもどき）
桔梗（ききやう）

阿部駿州藩
松篁齋池上固存

金雀花（えにしだ）
赤菊（につきく）

麹町平河天神裏門前
鈴木錦蘿

馬耳蘭

七本拾九枚

櫻田備前町

松一齋九貞雨

蘭

櫻田備前町

松友齋九雨皐

連翹
馬耳蘭

松秀齋

それ幽人韻士は有のまゝをもて楽し
まずして一瓶の水一枝の花に目をよろこばしめ
心を出すにこそ松秀斎主人しは
古流の生花をもて其門に入るもの
数をえらび或は膽瓶に挿し或は湘筒に
いれ又は懸籃にいけし姿凡二百
ばかりあるを櫻木にちりばめ同じ志ある
人々にほどこして予が一言をこふにまかす

いさしの香筆とふるをかしきあまり

蜀山人

業さし此の席に清恵あり猶くより何乃油活き
ぬ古代より香道は古徳つ乃道にて明らかなるより
権戯の和きをもて文情を重き尚附する處し志を年
平い余花と以へれとい翁の流る栄れすそや
深殿表居清かまへ小桜れきれ字府く掛紫上の
こうねしろうちれ東光そ流し指へ隔てかけるハいう
ありまん庵山乃僧正れまあ清り宗ろなとまま
座るち観恵そはよて秘密ぬ志め様そつあこ

あらひて傳へまいれ花の末ゝゐちゝゐ二百け筋り
と同じ心の人々をみをさらん事をき人もし得へむ
ぶて写し給ふ換るまでしきれなりしに筆於屋よと
わかえられ成翁とおほ花さて葉ハいかさて𛀁
石ヶ花は申み座との花しきたしもくさ末く
しけをとよし野川をやよりの友於是ハこと末
乃こころの是を示て此こ村中の係る筆を传しめ
参了とはなりたし　文化十四年四月

瓶花集跋

報恩経の天女が花を供して寶を得賢愚
経の長者が花をさゝきて富を以た於し
類ハ佛在世の不可思議なる事どもほ多
挿花の例しまひろむハ中しく係ゟ佛が為し
ら於る者於手に於りて於ま千ゟの末し哉
神のまにまにしかる為し三世の佛に花奉ると
詠じ給ひし流ハ神佛に手向まつりしかゐさ
ふもあるで瓶に花をいけて活て楽む人哉

ともかなし自ら心をまよはさんよ志たゞし
とおもひ世にいふ古き歌物語などを持中に
住みく是えたる拙き技又た此頃の世にまされ
師につきて学び寄に務しておしの流儀を立
流を傳へるところ紹鷗宗易なども茶道の
打具して取立たる近世よりのちにはしたがひ今に
其流たる人の心は数寄の業を成させ志てうむを
拙きも拙く学びてはあらず執筆なれば学びに先
師を撰しも拙し、いにしへの誘に師は雨露のごとく

才子なる末草のめしにかへても発意して面白き小品か
おのが拙くて花の色香を備へ雨にさらしおのが挿て花の
色香をそこなひしおのれが撰みて学びにあるべくば
家に其道の博士だつ人あり松秀斎理貞翁といへり
古流とよぶ門をひらきて教ゆる道は他に異なれば自然に神佛の
法心に叶へるにやあらん教ゆるあるが中に此流の松ひとり
秀で枝葉学びて嬉しからぬ其門に来の人より観る
物したる草の形をうつして餘り墨がきて写し本をて枝に
吾きて久しく継あがる無為なるの心にや千代の松となりけん

名付る神の見えざるをもつて見えずそもそもいづれも地の
なしのまゝなる形をしたるは青き翠竹総是法身
鬱々黄花無非般若といふ神をこそいふなる籬の花も
はじめより瓶花三昧の宗とせし神なれば生花三昧よ
入りぬ天女が寝覚を得長者が富をえたりけりしこそ
まさるらむ小さき神の楽しさのあくがれつゝもまたぐ道
流る海しさは世あて志がおのが掻き辞をときえて
思ひを述てまうさんと有ける

應需

狂歌堂真顔書る

一日四巻乃花競を展て年あれども
古流の特生中川氏松寿斎の門生
数瓶の製作をもて年々春遊する
事を専らとして既に二百余の出品を満たらぬ
とうむ家にこの度あまたの挿花を堂に展覧
きまり方角をすてたれば是よりはまたやう
よく野をの風雅の面白き姿のゆゑ
宗子の好のなつかしきいろいろしたるの

茶の湯を好める者は家々に代々の流儀をもてし
なへ行して此をなせる門人をもてなしけるもあり
風流を好みて新たに松花堂の流を伝へ来りて
宗く中川の流をたてて松本の流をつくりなす
く伝へりんやを理貞の流としたなりし
あまくしは守る

襟着て花のゆかりしや膝枕

萬葉庵午悦

今小堀流はしるし高き流の中にも新たに川上の翁
は梅を手折り風流にして池の杜若を数寄にや活け
しく康の音かしこしといひし人は秋のわびしき
茶いろとて団扇にて涼める者は盤木の探立たりや
春といひ夏と称り秋と冬とをこし禅家
窓の内にも不白を見て茂すく高雅に草木を
うつせるしこよなきみやびなりしすや松秀斎
のゆかしきとめ乃いしまふ庵さすてけさをなん今の

みちひ余り門ふ拝画をとくへしことひ一巻の
図をあらし事桜いのちあるふせんと来
二世まてその名しはらくふつたへし
かし

松盧斎理拝

らんの香ぬめくさきつゆをうる
あおうすみく咲いつる
艸木の花乃なきくさ
一瓶ふさしちらん二る
生よの旅も紛しまぎし

身も興も有ともすもす
従年もていもは縁を
うさめつき苦もものいさ
おしとふしまて案
大ちよ何もて君子の

如よりも來るはめさましは
おそろしきを偏ひ城戦
のやすはらし野の花を
うつさまを何ゆるまゆは
骨しらす丑もさと鼓し

操にめでし訪ねこそゆかし
那須はつまへ浅くもなく
さしめにやよろ露に松秀前
乃こし花をこめして
ねに境め乏に徒て天

甘之の奥もりを極め妙なる
聴衆自然の景をもちなき
山海無間隔情に深ふ
たらゆる門生の風土二丞
植の花をさし其を

岡重に挿して此業乃
くゆらす業におさんと思は
ちしし出来ぬる名
の周ゝはなれはいきくる
おゆるのならしもとのいつ

くゆふことしるちなまん
ならし

丁丑孟夏

松英翁法橋

夫花乃徳たるや多し色識和して常
人家我身乃寡欲にして天地の深意を
體し道乃之手折る席上乃おれ乃を
或は深山幽谷の深きに入てを引移しその
花かしこ枝を携へる種々の姿を
造る楽甚しきにあり香を自然に任せ
木との草物乃さし乃本を草木万事の

時に能絶代乃功能ありといへり家有
松秀乃秘なるもの集連升をして数瓶乃
生け方能模写せんと其記せる所乃畫式を
つくる有り法正しくして手に抵毎に異り多
奥いと深し予が友婦集畧に所能を多
香母小花を能りん奥しくき色を窮めて一枚
一葉もあやまりなく活きハ武将乃
立るに似く威あるて不挫がごとく弱きハ

美人の姿に似たる多娟やかにして正しきハ
位ありて雲客乃糖ひに畏られ一瓶の
簾捨手くもしくて師胆松應許れ念ずるも
かなひなんにあれバ今世に畫式能えと
して當流と號る人尚も能由ただ能て
傳り多能に遍し云れハ松秀先生一帖を
彫刻せんと予に序せよと予時道有
ま法も事久しとといへども十が一をも

はうかたとぬき出て四まかとあし　枝まへ有てはるも
つきはあまたんやむことなきゝ御のみゆるおもむき
たいの花ふたとしろ手あり紙数さらに千代の松さ
かへつらし行ふ人のゆるし字得たる松乃枝葉は
ころなかりしゆかせ給ふ御流儀の初ふき
家元へことをおほしめしふまさんの時め
多代十とせまはり数ともの巽
門人
松一斎九貞雨

夫生花ハ花の出生生氣をしるをまつ數ハ極まり
山里水辺よ遊ひろく一生出生をよくしるし
するは深たりもたとへの数も又出所の数も
親ふ字律せ時ハ其親花ニ随ひ流儀の
きりも去嫌ひ又ハ葉付枝ぶり自然の
風情おもしろくなかれ律をまもる事成

心尓流をし我かをたのしむ時ハしせんよ
人のめでも慰ぬるものハ其事よ遊んて
業ひの中尓得て擧よ極むる時ハおのつ津し
加陸花体陰陽をわかりぬ是当流の
花形の無し此押花ハ愚評へ年久敷
月ごと一會を定く四季の亀弟を那く

門中集り花競とて瓶尓挿し或ハ
筒よさし何ひハ瓢よさし籠しに
其中よ能く秀逸の花秋を寫し
終よ二百瓶をえらみ図となし四巻よ
編ぬめまし梓木にの保せよせし
門人の進を数度よおよび図譜となる

さしはに得其もに任せれと
諸候諸雅人乃花文をもて新書の
花はゆし永く代々に傳されしは
額に門中初心の手引稽古時にも
形されんに小さき古流生花千代の松と
称しゝく人の好さなりしをもかえりみさて

花形をとらせし侍りぬるも
春秋のゝ山乃色も稚き中に
うつしそめしに和らぎ楽しむ

松秀斎理貞

文化十五戊寅年春三月發行

松秀齋先生撰

門人
松一齋貞雨
藏板

書肆

雕工

江戸新肴町
穐長堂利兵衛

同本材木町三丁目
上村兵吉

京都堀川通高辻上ル町
植村藤右衛門

大阪心斎橋安堂町
秋田屋太右衛門

江戸芝神明前
岡田屋嘉七

同日本橋南二丁目
野田七兵衛

同幸橋御門外兼房町
丸屋三郎兵衛